

高齢者虐待対応における課題の整理とその解決方法の考察

一般社団法人 社会福祉士事務所にじみる

〒329-0618 栃木県河内郡上三川町しらさぎ2-32-19

助成事業の概要

本研究は、栃木県内市町の高齢者虐待対応がより有効に機能し、高齢者虐待件数の減少につながることを目的に実施した。

高齢者虐待対応には多くの課題があるものの市町には、高齢者虐待対応の実践経験が積み重なっている。しかし、高齢者虐待関連相談件数の少なさや事例の多様性、プライバシー保護の観点等から事例を集積分析し、そこから課題と解決方法を見いだすことに取り組めていなかった。

本研究では、平成27年4月から平成28年3月までに、高齢者虐待を担当する市町及び地域包括支援センター職員にアンケート調査及び電話調査を行い、その後、それぞれの市町に出向きグループインタビュー（聞き取り調査）を行い、市町の実情や特徴による市町独自の課題についての分析を試みた。

調査後、本研究の課題と考察について意見交換し妥当性を検証し現場の知見を加味する場として、市町・地域包括支援センター職員を対象に研修報告会を開催した。

事業の成果

本研究によるアンケート調査、グループインタビュー（聞き取り調査）により得られたデータをもとに、調査者および研究協力者にて情報の整理を行い、課題・考察について検討した。その結果を、市町・地域包括支援センター職員を対象とした研修報告会のグループワークにおいて妥当性を検証しそ

の際得られた意見と知見を加味したものを本研究の成果として高齢者虐待対応の課題とそれを解決する糸口となる事項として考察した。

主な課題は、市町ごとに工夫しながら行ってきた高齢者虐待対応事例を組織的に蓄積できていないこと、対応のプロセスや方法が仕組として確立されていないこと、複合的な課題を持つ養護者への支援、高齢者と養護者の人間関係への介入が困難であること、高齢者虐待を担当する職員は虐待発生家庭への訪問や長引く対応等にストレスを抱えているがメンタルケアの仕組が充実していないことがあげられた。

解決する糸口として、市町ごとに積重ねてきた事例対応ノウハウを市町を超えて栃木県全体で集積し分析研究することが重要なポイントになる。市町・地域包括支援センター職員自らが事例をもとに解決方法を導き出せると同時に職員同士の情報交換や知見を高める場となり、さらにストレスを減少させることも可能になると考える。

さらに、高齢者虐待対応を根拠立てて行うための様式等の活用や養護者支援を行うための方策なども検討がいる。

成果の広報、公表

本研究の成果として「高齢者虐待対応における課題の整理とその解決方法の考察研究報告書」を作成し、栃木県内全市町・地域包括支援センター、栃木県、県内新聞社、関係機関などに送付した。

市町・地域包括支援センター職員を対象に報告研修会を開催し、本研究調査結果概要について市

町・地域包括支援センター職員と共有しながら検証し、その結果を踏まえ栃木県高齢対策課に高齢者虐待対応についての提案を行った。

なげたい。

2月に下野新聞2面社会面に本研究調査結果概要が掲載された。それを受け、地域の民生児童委員協議会や高齢者福祉担当職員研修会などでも調査結果概要を報告した。また、行政が主催した高齢者虐待対応研修会の様子がNHKで放送された。

地域の福祉まつりで高齢者虐待コーナーを設置し市民向けに研究結果概要について展示し、同じく、家族介護者教室にて研究結果概要を使用して啓発活動を行った。

当法人のホームページに成果報告書を掲載している。

今後の展開

市町ごとに積重ねてきた事例対応ノウハウを市町を超えて栃木県全体で集積し分析研究することができる体制づくりを検討したい。高齢者虐待対応を行う市町や地域包括支援センターの職員はもちろん栃木県とも連携しながら、過去のノウハウを蓄積しより効果的な方法を検討できる場を目指す。

アンケート調査及び聞き取り調査を行った市町の内、高齢者虐待対応についての判断や役割分担、支援方法について比較的うまくできている市町について、何らかの形で追跡調査を行いたいと考えている。その追跡調査から、高齢者虐待対応の具体的なノウハウを見つけ出し、他の市町の参考となるような情報提供を行いたい。

また、市町に対し高齢者虐待対応のアドバイスをを行う専門職（社会福祉士・弁護士）を派遣する栃木県虐待対応センター（栃木県社会福祉士会・栃木県弁護士会で共同設置）の活動でも、本研究結果を活用し、さらなる実践的なアドバイスにつ